

北秋田市まち・ひと・しごと創生総合戦略 地方創生関係交付金 事業検証シート

事業名	奥秋田サステナブルツーリズムプロジェクト	担当部課名
総合戦略基本目標	基本目標1 産業振興による仕事づくり 1-④ 観光・レクリエーションの振興	観光課観光振興係
交付金 種別	デジタル田園都市国家構想交付金(地方創生推進タイプ)	
事業目的(一覧表F列)	近年の観光の動向として、観光目的地選定の要因のひとつとしてサステナビリティが挙げられ、特に外国人観光客や修学旅行・教育旅行においては、その度合いが高くなっている。当エリアは鉱山技術を活かした家電リサイクルや有価金属リサイクルなどのリサイクル産業が盛んな地域であるものの現状は施設見学等にとどまっているため、当地域の歴史的背景を組み合わせることによる顧客体験の向上に大きな余地を残している。またエリア内には十和田八幡平国立公園や「北海道・北東北の縄文遺跡群」のひとつである伊勢堂岱遺跡を有しているほか、狩猟文化＝縄文を連想させる「マタギ」などがあり、エコツアーなどの新規顧客獲得に当たり、優位性がある。観光消費額をあげる新たな戦略として、当エリアの強みである自然と古の先人による世界遺産や、地域産業に根差したサステナブルな取り組みを、レジャー観光だけでなく教育、企業研修等様々なニーズに合わせ再編集することで付加価値を向上させ、新たな稼ぐ観光を構築するものである。	

事業費	総事業費(入力シートD列) 30,257,252円	交付金実績額(入力シートE列) 7,498,652円
-----	------------------------------	-------------------------------

NO	KPI(重要業績評価指標)
①	地域への経済波及効果(百万円)
②	教育市場(修学旅行・教育旅行・留学)収入(千円)
③	農家民宿関連(農泊・農業体験・きりたんぼ作り体験等)収入(千円)
④	来訪者の地域のサステナブルな取り組みに対する評価(5段階評価)(ポイント)

KPI	目標値									
	実績値									
	年度	R4	年度	R5	年度	R6	年度	—	年度	—
①		11,387		11,929		13,014		—		—
		15,926		16,468		—		—		—
②		1,564		1,991		2,844		—		—
		4,089		4,768		—		—		—
③		780		993		1,418		—		—
		2,447		2,881		—		—		—
④		3		3		3		—		—
		4		4		—		—		—

事業の概要(一覧表BS列)

国内外のマルチクラスをターゲットとした、環境・文化の振興を志向するすべての人々を対象に、『未来に向けて自然と暮らしを守り、活かし、つなげる。恒久なる時空を超えた、成長する・貢献する旅づくり』をコンセプトに、北奥羽の広域的な連携による相互の発着型観光となる「旅づくりの拠点」整備と、『環境にやさしい、身体にやさしい、人にやさしい奥秋田』をコンセプトに、「環境、産業、教育、文化、自然」などの様々な分野に当エリアの強みであるサステナブルを付加価値として新たに加えた、モノ(商品)とコト(観光)を開発し、「稼ぐ観光、豊かな暮らし」に繋げるものである。

具体的な取り組みとしては、「①エコツーリズムを核とした新たな市場開拓と稼ぐ仕組みづくり」、「②観光を活用した地域の自然・文化・経済の持続可能性向上のための態勢整備」を事業目的の柱とする。

◆担当部署による自己分析(各項目5点満点、総計45点満点)

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	10
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	4
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3

総合評価	34	今後の方向性	現行のまま継続	事業の取組状況と今後の対応方針について(入力シートBT列)
				令和5年度はインバウンド客需要が再開したため、シンガポールで開催された「JAPAN RAIL CAFE」や台湾での「日本東北遊楽日」に出展し、海外でのPRに取り組みした他、外国人インフルエンサー招聘事業を行うなど、秋田県北地域の魅力を世界に向けて発信する事業展開を行った。 また、隣県DMOとの連携として、「Clan PEONY津軽」と津軽地域・秋田北部地域のこれからの考えるワークショップを実施するなど情報交換も行ったほか、観光庁指定「モデル観光地」の事務局である「八幡平DMO」との連携を図った。 今後も、隣県DMOとの連携を図りながら国内外からの観光誘客事業を強化していく他、アクティビティの磨き上げを行うなどして、引続き観光消費額の拡大を目指しながら、持続可能な観光地域づくりに取り組んでいく。

以下は検証会議で使用

◆検証会議による客観的検証

妥当性評価	12	有効性評価	12	効率性評価	9
市が関与すべき事業か	4	事業は効果的か	4	他に効率的な手法はないか	3
市民のニーズは高いか	4	成果が期待できるか	4	コスト削減の余地はないか	3
目的・対象は妥当か	4	政策目標の実現に貢献しているか	4	受益者負担は適当か	3

総合評価	33 / 45
------	---------

検証会議による評価	B
-----------	---

【検証会議 評価基準】

- A かなりの効果がある
- B 相当程度の効果がある
- C あまり効果が見られない
- D 効果が乏しく改善の必要ある

